

J A I R E S

北陸先端科学技術大学院大学 ロボットサークル



去年より人体に負担が少ない救助方式にすることができました。
今年はより素早く、安全な救助を目指します。

前回は役割を一つのロボットに集約した結果重量と機体が大きくなり、操作性が低くなりタスクに失敗するという反省点がありました。

今回はその反省点を踏まえ、人の救出をするロボットと人を運搬するロボットを作成し、タスク遂行能力の向上をしました。